

地元酒蔵に求められる 新酒米「酔むすび」の産地を目指して

管内の酒蔵の要望から、安定した需要と生産者の所得確保が期待される酒米新品種「酔むすび」が中山間農業研究所にて育成された。

恵那管内での「酔むすび」の普及に向け、生産者及び実需者（酒蔵）等が連携した「新酒米による産地づくり研究会」の活動を支援した。



活動内容 R6~7

① 地域に適した作付体系・栽培技術の検証

R6

- ・コシヒカリ生産に影響しない晩植体系の実証
- ・刈取適期の調査、収穫日程の調整

+ R7

- ・高収量及び品質向上に向けた検証（栽植密度の上昇、基肥の増量）
- ・栽培暦の作成



② 新酒米による産地づくり研究会の活動支援

- ・研究会の開催支援（課題共有、生産者と実需者（酒蔵）との交流）
- ・管内独自の生産者との連携（収穫適期の目揃え、問題意識の統一）



成果 R7

① 地域に適した作付体系・栽培技術の検証

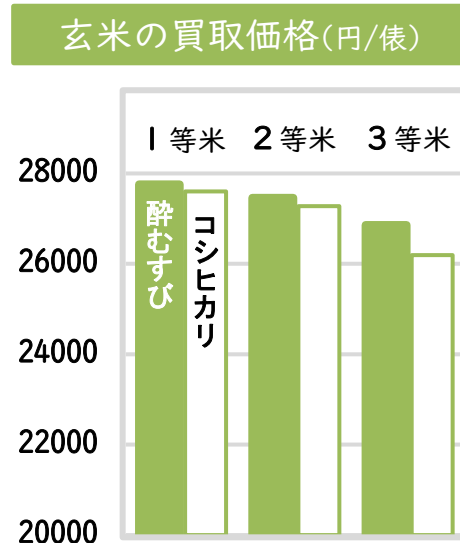
R7	目標	実績
1等米比率	100%	40%
平均単収	420kg	335kg

- ・昨年よりも平均単収が増加。
- ・収穫期の雨により一部刈遅れ。

➡ 収量の高位平準化



② 新酒米による産地づくり研究会の活動支援



- ・コシヒカリよりも高価格での買取
- ・高品質な酒米生産を目指す意識醸成

↓
生産者と実需者の関係強化